

自己評価報告書

平成 23 年 03 月 25 日現在

機関番号：32607

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008-2011

課題番号：20592028

研究課題名（和文） 喉頭機能温存手術 SCL-CHEP の術後音声嚥下機能に関わる生理的エビデンスの解析

研究課題名（英文） Pathophysiological evidence of post-SCL laryngeal function

研究代表者 中山 明仁（NAKAYAMA MEIJIN）

北里大学・医学部・講師

研究者番号：20207955

研究分野：喉頭科学、腫瘍学

科研費の分科・細目：耳鼻咽喉科学・頭頸部外科

キーワード：喉頭癌、機能温存、生理的解析

1. 研究計画の概要

喉頭亜全摘手術を行った症例がどのような術後経過を取り、喉頭機能を再獲得して行くか解析する。高速度撮影、三次元CT再構築、音声機能検査の推移などを活用して行われる。喉頭亜全摘術後の喉頭形態のみでなく生理的機能についても解析する。

2. 研究の進捗状況

研究3年目を終えるにあたり、具体的な結果が発表されている。症例の集積も順調であり、2011年の時点で80症例が集積されている。喉頭機能の解析は進み、音源の定位、披裂部の三次元移動、術後経過の動向など、症例管理に反映されている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。高速度撮影による音源定位は検討症例の90%以上で特定の音源が検出された。三次元CTによる披裂部の可動性の解析では前内方の移動が重要であることが明らかとなった。手術後の切除断端、合併症の解析でも新たな事実が明らかとなった。

最終年度の総括を視野に入れてさらに検討を深めている。症例の集積、研究結果の発表、論文文化は順調に進められている。

4. 今後の研究の推進方策

研究の総括、課題、新たな研究プロジェクトの立案段階に来ている。過去3年間の研究結果を総合的に評価し、新たな課題が幾つか挙げられる。課題をさらに評価し、次の研究へ反映させたいと考えている。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① Nakayama, M., Okamoto, M., Iwabuchi, K., Mikami, T., Seino, Y.: Clinical significance of intraoperative surgical margin study in supracricoid laryngectomy. *Auris Nasus Larynx*, 38: 261-265, 2011. (査読あり)
- ② Nakayama, M., Okamoto, M., Seino, Y., Miyamoto, S., Matsuki, T., Ogawa, A.: Delayed wound infection after supracricoid partial laryngectomy following failure of high dose radiation. *Eur Arch Otorhinolaryngol*, 268: 273-279, 2011. (査読あり)
- ③ Nakayama, M., Okamoto, M., Seino, Y., Miyamoto, S., Hayashi, S., Masaki, T., Yokobori, S., Takeda M.: Inverted epiglottis: A postoperative complication of supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy. *Auris Nasus Larynx*, 37: 609-614, 2010. (査読あり)

〔学会発表〕（計 3 件）

- ① Nakayama, M., Seino Y., Okamoto M., Shunsuke M., Okamoto T.: Clinical significance of positive Delphian node in supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy. The 12th Asia-Oceania Otolaryngology Head and Neck Congress, 2011.3.1-4, Aotea Centre, Auckland, New Zealand.
- ② Nakayama, M., Okamoto, M., Seino Y., Shunsuke M., Hayashi S.: Delayed wound infection after supracricoid laryngectomy following failure of high dose radiation. The 4th World Congress of International Federation of Head and Neck Oncologic Societies, IFHNOS 2010, 2010.6.15-19, Lotte Hotel Seoul.
- ③ Nakayama, M., Matsuki, T., Okamoto, M., Seino Y.: Flaccid neoglottis following supracricoid laryngectomy: laryngoscopic revision assisted by navigation system. The 4th World Voice Congress 2010, 2010.9.6-9, Coex convention center, Seoul.

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

なし